

### 3 1. ”口癖”を変えれば不思議なほど”ご利益”がある！

悪い習慣の根には、自分でも気づかない罪悪感が潜んでいる場合があります。

---

まだ若いのにとっても評価の高い社長がいました。業界の評判も高く、仕事もあり余るほどありましたが、なぜかその会社は少しも儲からなかったのです。

あるとき、その社長の親友がこうアドバイスしました。

「本気で儲ける気でやらずに。今のやり方だとつぶれるぞ」

社長の口癖は「私は設けるのが下手で……」というものだったのです。

実際にいい仕事をして、あまり儲けがありませんでした。

彼はなぜそんなふうになったのでしょうか。幼いときに父親から「お金は汚いもの」と教えられていたのです。その記憶がずっと心の奥底にあって、それが彼の口癖となっていたのです。

親友のアドバイスで、そのことに気づいた社長は、口癖を変えました。すると、不思議ことに、会社はみるみる利益を上げられるようになったと言います。

この話とまったく逆の例もあります。あるワンマン社長の息子は、父親から会社を受け継ぐと、会社をつぶしてしまいました。父親の教えた通りやらなかったからです。

このケースは父親のワンマンぶりに抵抗はできなかったけれど、心の奥底で批判的だった息子が、ことごとく父親のやったことと反対のことをしました。従業員に喜ばれはしたものの、会社が立ち行かなくなってしまったのです。

私たちはいろいろ習慣を持っていますが、その習慣の根っこには、マーフィー博士の指摘する通り、罪悪感が潜んでいる場合が少なくありません。たしかにお金儲けに罪悪感を持っていたら、儲けるのは難しいでしょう。

でも、お金は調和のとれた平和な生活を送るために絶対に必要なものです。必要なものを避けたり批判したりすることは決してよいことではありません。

かといって、「お金がすべて」というのも行きすぎです。もっともバランスのとれた考え方は次のマーフィー博士の言葉で決まりではないでしょうか。

「世の中にはいいものとか悪いものとかがあるのではなく、よいものと考えればよくなり悪いものと考えれば悪くなるのです」

---